

# CSR

Corporate Social Responsibility  
Report 2022



<https://www.kobelcosys.co.jp/>

本 社：〒657-0845 神戸市灘区岩屋中町4丁目2番7号 シマブンビル  
東京本社：〒141-8688 東京都品川区北品川15丁目9番12号 北品川IONビル

発 行：コベルコシステム株式会社 CSR推進委員会  
(事務局 TEL. 078-261-6001 FAX. 078-261-7520)

本誌は、印刷・製本に関して以下のような配慮を行っています

印刷に関する配慮



印刷工程において有害廃液を出さない  
「水なし印刷」を採用しています。

用紙に関する配慮



この冊子はFSC®認証紙を使用して  
います。

インクに関する配慮



環境負荷の少ない植物油  
インクを使用しています。



## Top Message

2021年も前年同様、全世界が新型コロナウイルスに翻弄される一年となりました。その中、東京オリンピック・パラリンピックは無観客での開催となりましたが、日本を含む世界中のアスリート達の活躍は、先行きが見通せない中、大変勇気づけられました。今後も変異株による感染が続き、不確定要素が多い世の中ですが、感染予防に取り組み、強い気持ちを持って未来を見据え、ステークホルダーの皆様とともに乗り越えていきたいと考えています。

当社は、長期経営ビジョン『Be a Trusted Partner』の実現に向け、2021年～2023年の3か年の中期経営計画『Vitalization』を策定し、取り組みを進めています。お客様の“Vitalization” (活性化) に寄与するため、「集客よりも定着」「脱工数<sup>(※1)</sup>」「多様性の尊重」のキーワードのもと、ともに取り組んでいくことを社員と共有し、お客様に貢献していく考えです。

### 集客よりも定着

今お付き合いさせていただいているお客様を何よりも大事にし、お客様の企業文化・考え方を深く理解するとともに、基幹システムだけでなくDX(デジタル・トランスフォーメーション<sup>(※2)</sup>)についても相談してもらえるパートナーを目指し、お客様とともに取り組んでいきます。

### 脱工数

これまでのシステム受託開発型ビジネスからの変革を目指し、共通化・効率化・自動化・アセット化・テンプレート化を加速し、より高い品質と生産性にチャレンジしていきます。加えて定額制サービスなど、継続的にお客様とともに価値を創り上げていく共創モデルを推進し、当社の存在価値向上を目指していきます。

### 多様性の尊重

さまざまな経歴やスキルを持った多様なプロフェッショナル人材が、当社の中で成長、貢献、共創できる環境を整備し、多様な人材が健康で安心してイキイキと働ける会社を目指していきます。

左記の取り組みを通じて、お客様の発展とチャレンジに貢献し、当社の長期経営ビジョンである『Be a Trusted Partner』を実現していきます。

また、ESG/SDGsを意識したサステナビリティ経営は、今世界が置かれている環境・状況を踏まえると、避けて通ることはできません。すべてのステークホルダーにとって、当社がかけがえのない存在となるよう、社会課題の解決に挑み、価値を提供し続けることを目指し、当社におけるサステナビリティ経営の在り方を議論しはじめています。そのベースにあるのは、今まで取り組んできたCSR経営であり、コンプライアンスの遵守だと考えています。社員一人ひとりがコンプライアンスの重要性を理解し、正しい判断に基づいて行動していきます。

今後もお客様やパートナー様、社員をはじめ地域社会を含むすべてのステークホルダーの皆様とともに歩んでいきたいと、当社の取り組みをCSRレポートにまとめました。当レポートをご覧になられた皆様が、当社をよりご理解いただけることを切に願っています。

代表取締役社長

瀬川文宏

※1:脱工数

工数ビジネスからの脱却。工数ビジネスとは、作業量に応じて費用を支払うもので、要員単価×所要月数で見積るビジネス。

※2:デジタル・トランスフォーメーション(DX: Digital Transformation)

企業がビジネス環境の激しい変化に対応し、データとデジタル技術を活用して、顧客や社会のニーズをもちに、製品やサービス、ビジネスモデルを変革するとともに、顧客に新しい体験を提供することにより競争力を持つこと。

## Contents

### 特集

- 03 中期経営計画の進捗について
- 07 コベルコシステムにおけるDXの取り組み

### CSRの取り組みについて

- 09 CSRを支える経営基盤

### お客様とともに

- 11 お客様から信頼されるパートナーになるために
- 13 セキュリティなくしてビジネスなし
- 14 品質向上活動に終わりはない
- 15 先進技術への取り組み強化
- 16 外部からの評価
- 17 お客様事例紹介

### ビジネスパートナー様とともに

- 19 公正なパートナーシップの維持

### 社員とともに

- 21 人材育成の仕組み
- 24 社員と組織の絆を深めるために

### 地域社会とともに

- 25 環境保護・地域貢献活動
- 26 会社プロフィール / 沿革 / 編集後記

#### 【報告対象期間】

2021年1月1日から12月31日の1年間の活動を中心に記載しています。  
一部につきましては、対象期間以前からの経緯やCSRレポート発行時直近の事項についても記載しています。

# 中期経営計画の進捗について

## 経営理念・長期経営ビジョン・中期経営計画

### 経営理念

私たちコベルコシステムは、お客様と「夢」を共有し、確かな知識と卓越した技術によるITソリューション/サービスを通じて、お客様の発展とチャレンジに貢献し続けます。

### 長期経営ビジョン

## Be a Trusted Partner

お客様に信頼されるパートナーとして

- お客様にとってなくては困る会社
- お客様とともに成長する会社
- 社員が誇りを持てる会社

### 中期経営計画

## Vitalization

- お客様がニューノーマルと呼ばれる新しい世界で成長するための変革を支援する。
- そのために当社もパートナーとしての新たなステージに向け変革をスタートさせる。

コベルコシステムは、今後も永続的に発展を続けるために、将来ありたい姿を示した長期経営ビジョン『Be a Trusted Partner』のもと、長期経営ビジョンの実現に向けた3か年の中期経営計画『Vitalization』を2021年4月に発表しました。中期経営計画の骨子は以下のとおりです。

### Vitalization 3つの方針

#### Trusted Partnerを目指したビジネス強化

- Trusted Partnerを目指した新しいパートナーシップモデルの提供
- 神戸製鋼所様の機能分担会社としての価値向上

#### 新規DX事業の立上げと既存事業の高収益化

- DXソリューションの事業化
- 脱工数ビジネスへの転換
- 神戸製鋼所様のIT戦略支援、デジタル化

#### 事業変革の基盤となる人材への投資と社会貢献

- 将来を意識した多様なプロフェッショナル人材の育成
- すべてのステークホルダーへの貢献

### Vitalization 5つの重点施策

営業戦略	1	<b>お客様別パートナーシップモデルと効果的アプローチ</b> ● 主要顧客向け共創モデル・協働モデルの確立 ● お客様個別への効果的アプローチ	2	<b>製造業向けDXソリューションとHI-KORT4.0の知財拡充</b> ● DXソリューションの開発と事業化 ● HI-KORT4.0の拡充とDX連携
	3	<b>脱工数ビジネスへの転換加速とさらなるQCD強化</b> ● アセット、コンテンツの拡充 ● サブスクリプションモデルの拡大 ● QCD強化(オンライン環境下を含む)	4	<b>プロフェッショナル人材の育成投資</b> ● コベルコシステムグループ人材育成モデルの開発 ● 顧客接点人材の強化 ● 先進技術への取り組み活性化
本社機能別戦略	5	<b>健康と生産性を重視した新しいワークスタイルの実践</b> ● 社員の心身両面での健康促進支援 ● 高いモチベーションと生産性の維持に向けた組織風土と働き方変革		

## 中期経営計画の浸透に向けて(キャラバンの開催)

中期経営計画の浸透と、コロナ禍の長期化による課題状況(在宅勤務が長引いていることから、コミュニケーション不足や、会社・組織への帰属意識の低下、社員の疲弊感・孤立感など)のヒアリングを目的として、全ライン長を対象とした社長とのディスカッション(=キャラバン)を開催しました。

キャラバンは、組織単位で5人前後の部長・グループ長を対象に、社長および対象部門の本部長・副本部長がホスト役となり、「中期経営計画を遂行するうえで困っていることやリクワイアメント」、「配下メンバー・チームを活性化するために、会社全体で取り組んでほしいアイデア」、「自部門での活性化の取り組み事例の紹介」をテーマに、各グループ長からの現場の生の声を聴き、社長との意見交換を行う、という内容です。

実施は5月から8月にかけて、全27回に及びました。各回1時間~1時間半の限られた時間の中でしたが、オンライン会議形式でお互いの顔が見えるようにして、各回活発で有意義なディスカッションが行われました。

### 〈キャラバン ディスカッションテーマ〉

- 中期経営計画を遂行するうえで困っていることやリクワイアメント
- 配下メンバー・チームを活性化するために、会社全体で取り組んでほしいアイデア
- 自部門での活性化の取り組み事例の紹介



キャラバン実施時の様子

キャラバンでヒアリングした現場からのリクワイアメント、社員活性化のために会社全体で取り組んでほしいアイデアの中で、要望が多かったもの、優先順位が高いものについて、各テーマの関連部門にて、今後の取り組み・対応の方向性を検討し、結果を社内でも共有しました。既に対応済・実施済みのものを含め、一部をご紹介します。

テーマ	社員の声	方向性
在宅勤務環境の整備/オフィス環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>● サブディスプレイ、イヤホンマイクなど在宅勤務に必要なものを支給してほしい</li> <li>● afterコロナを見据えたオフィス作り(オンライン会議用の個人ブースなど)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 生産性を上げるために必要であれば、各人の仕事にあわせて責任者の承認を得たうえで購入</li> <li>● リモートワークと連携しやすい事務所環境の構築を検討(Web会議用個人ブース)</li> </ul>
全社イベントによるコミュニケーション機会	<ul style="list-style-type: none"> <li>● コロナ禍で中止になっている全社員が参加可能な社内イベントを、オンライン開催などで再開してほしい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● オンラインでの家族参加型全社イベントを12月上旬に実施</li> </ul>
超上流人材の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>● DXビジネス推進に必要なスキル習得の支援が必要(社内勉強会、事例共有、など)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 既存研修プログラム(コンサルティング力強化、TP人材<sup>(※)</sup>育成)の活用促進</li> <li>● 人材育成検討会で、それぞれの人材育成における課題を確認し、対応策を立案</li> </ul>
PM・コンサルの育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 若手のPM、コンサルの育成が進まない(案件規模と経験のアンマッチ)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● DXビジネスを推進する人材については、人材の定義からはじめ、育成プログラムを2022年から開始</li> </ul> <p><small>※TP人材:お客様から伺ったことの本質を理解し、真の要求を引き出し、カタチにすることができる人材</small></p>

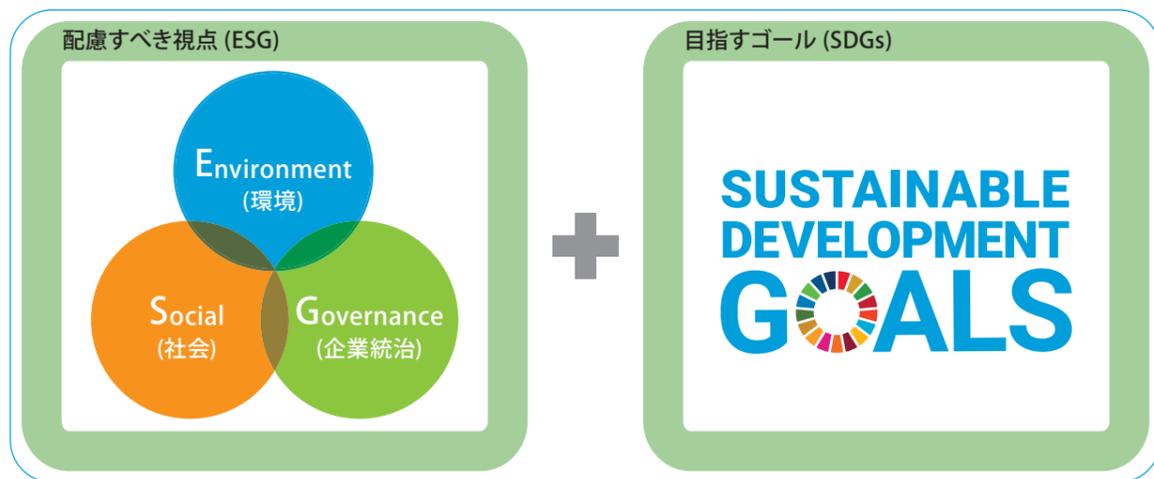
キャラバンで紹介された各部門で独自に取り組んでいるコミュニケーション活性化事例は、社内でも共有し、他部門の取り組みを参考に各部門にてさらなる発展につなげています。以下にコミュニケーション活性化への取り組み事例の一部をご紹介します。

コミュニケーション活性化事例	概要
1on1ミーティング	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 月次・隔週で実施</li> <li>● 新人配属時・異動時には、メンバー同士の1on1も実施</li> </ul>
勉強会	<ul style="list-style-type: none"> <li>● お客様のシステム部門と共同で、システムおよび業務の合同勉強会</li> <li>● お客様、プロジェクトメンバー、当社技術部門での合同勉強会</li> <li>● チームでの週次勉強会</li> <li>● 若手社員間でフリーテーマの情報共有会・勉強会</li> </ul>
会議運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 企画・運営・司会を、若手社員が持ち回りで担当(主体的に発言する、先輩への担当アサインなど、実案件を想定した業務経験の場として活用)</li> </ul>

# 中期経営計画の進捗について

## サステナビリティ経営に向けて

コベルコシステムは、経営理念・長期経営ビジョンに基づき、すべてのステークホルダーにとってかけがえのない存在となるよう、事業活動を推進しています。また、ESGに配慮した経営のもと、社会の重要課題に取り組み、事業活動(デジタル化、ガバナンス強化など)を通じてSDGs達成に貢献していくことが、持続的な企業価値向上につながると考え、「サステナビリティ経営」の推進について、経営陣での議論を開始しました。



現在の当社の取り組みの一部と、SDGsの対照表は次のとおりです。

<p><b>お客様へのアプローチ</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期的なお客様満足度調査および改善アクション</li> <li>お客様の期待に応える人材を育成する戦略研修 (TP人材・グローバル人材育成、コンサルティング力強化、PM育成)</li> <li>戦略パートナープログラムによる、お客様へさらに価値あるサービスの提供</li> <li>先進技術カンファレンスなどによる先進技術の社内普及推進、技術力の向上</li> </ul>	
<p><b>人材の活性化</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全社員がイキイキと働き続けられる会社づくりを目指すKWC (KOBELCO SYSTEMS Work-engagement Community) 活動</li> <li>育児・介護と仕事の両立を狙いとした短時間勤務制度、子の看護休暇制度などサポート制度の充実(プラチナくるみん認定取得)</li> <li>社員一人ひとりの目標管理とキャリア形成を支援するCCP (Career Communication Program)</li> <li>当社発展の牽引力となる人材の育成と登用を狙いとするKCP (KOBELCO SYSTEMS Certified Profession) 認定制度</li> </ul>	
<p><b>社会的責任・社会貢献</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>IBMグループの全社員が守るべき行動規範 BCG (Business Conduct Guidelines) プログラムの浸透</li> <li>社員が遵守すべき事項を共通研修(適正取引、情報セキュリティ)で浸透</li> <li>業務委託先にも当社の定めるセキュリティ基準を遵守してもらうための年次セキュリティ研修</li> <li>地域社会への貢献および防災事業の一環としてのボランティア活動(「森の世話人」活動)</li> <li>協賛 (SCIX、大阪フィル交響楽団、アンサンブル神戸)</li> <li>外部団体加入 (神戸製鋼所・日本IBM関連、情報業界関連、官庁および地域団体など)</li> </ul>	
<p><b>KOBELCOグループ会社のDX戦略支援</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>KOBELCOグループ会社のサステナビリティ経営推進による企業価値向上を目指したDX戦略への支援 (KOBELCOグループでのDXソリューション適用事例のひとつとして、P.8 下のコベルコ建機様での「K-DIVE CONCEPT」を参照)</li> </ul>	

## 長期経営ビジョン・中期経営計画に基づくその他の取り組み

### ■お客様向け体制強化

コベルコシステムがお客様に信頼されるパートナー (Trusted Partner) であり続けるため、お客様に面に対応することを狙いにクライアント営業、クライアントSE、およびクライアント役員で構成するCPT<sup>(※1)</sup>の設置を段階的に進めています。CPTの活動状況は四半期ごとに開催する全社CPS<sup>(※2)</sup>にて定期的に報告し、全社でマネジメントしています。また、これまでのCPTの活動を振り返り、CPTのよりよい在り方の検討を進めています。

※1 CPT (Client Partner Team) : クライアントパートナーチーム ※2 CPS (Client Planning Session) : クライアントプランニングセッション

### ■キャリア開発センター新設

当社社員の持続的成長のために人事部門強化の一環として、2022年1月にキャリア開発センターを新設しました。人材の採用と育成の強化、人材の活性化を図るための専門組織として、中長期の視点に立った人材戦略を推進していきます。

また、これまでの人事部は、新しい働き方へのタイムリーな人事制度の整備、労務管理に注力していきます。

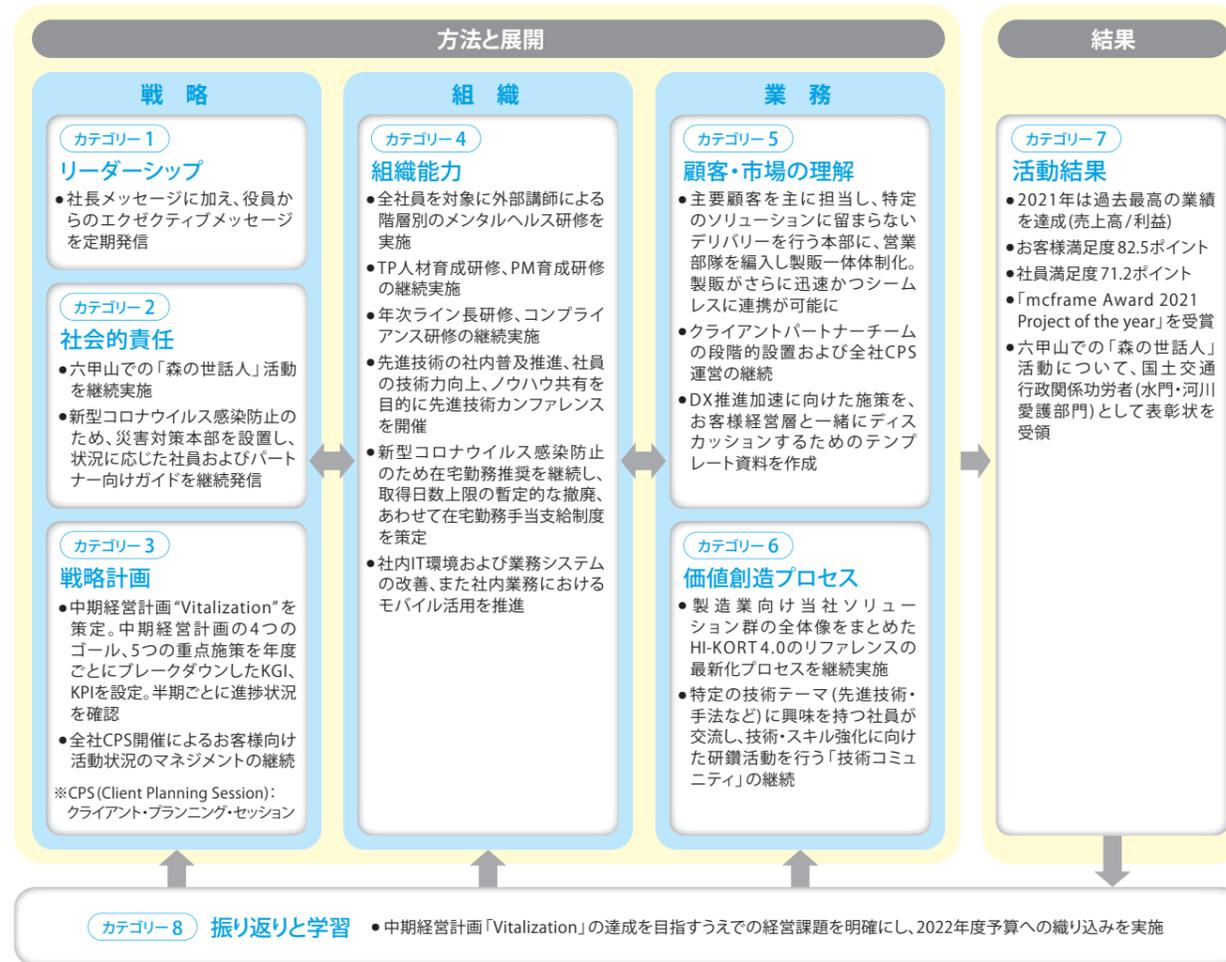
### ■リモート環境での働きやすさ向上

コロナ禍による在宅勤務の増加に伴い、社内ネットワークなどのインフラ環境の増強に加え、在宅勤務手当支給制度を制定し、あわせて通勤交通費の制度を見直しました。

## 経営品質向上プログラムのフレームワークと2021年の活動結果

コベルコシステムでは、経営品質向上プログラム<sup>(※3)</sup>の「顧客本位」「独自能力」「社員重視」「社会との調和」の4つの基本理念を軸に組織・プロセスの変革に取り組んでいます。各カテゴリーでの2021年の活動結果を下記フレームワークに示します。

※3 日本経営品質協議会のプログラムで、顧客、競争(独自性)、社員、社会のすべてにおいて高い価値を作り出すために革新し続ける経営づくりを支援するプログラムです。



# コベルコシステムにおけるDXの取り組み

## DXとは

近年、国内企業においてDX(デジタル変革)の取り組みの必要性が高まっています。国内企業のDXへの取り組みの火付け役となったといえる経済産業省のDXレポートでは、DXについて次のように解説しています。

- 企業がビジネス環境の激しい変化に対応し、データとデジタルを活用して、顧客や社会のニーズを基に、製品やサービス、ビジネスモデルを変革するとともに、業務そのものや、組織、プロセス、企業文化・風土を変革し、競争上の優位性を確立すること

さらに「DXとは、“デジタル化”の積み重ねでなく、デジタル時代に適応するための“企業体質の変革”である」と述べています。

コベルコシステムはパートナーとして、お客様のDXの取り組みに貢献できるよう、2021年からの中期経営計画で、当社としてのDXを定義し、DXを実現するためのソリューションの品揃えを拡充しています。

## コベルコシステムのDXの考え方

コベルコシステムは、システムインテグレーターとして、お客様のDXにどのように貢献するかという観点で考え方(方針)を右記のように定めています。

デジタル活用により、製造業を中心としたお客様の業務変革を実現するために、デジタル変革のご支援を構想策定～設計開発～保守運用まで一気通貫で行います。コベルコシステムは、DX推進の前提として必要となる「新技術の活用」や「上流人材の育成」に積極的に取り組んでいます。

### コベルコシステムのデジタル・トランスフォーメーション(DX)とは

1. 製造業を中心としたお客様のデジタル変革をご支援
2. Trusted Partnerとしてお客様のありべき姿を描きともに実現を推進
3. デジタル活用によりお客様の業務変革を実現
4. デジタル変革に対応可能な“順応力を持たせた基幹システム(SoR)”への移行をご支援
5. デジタル変革に対応するIT基盤の構築や周辺システム(SoE・Sol)の構築をご支援

これらをEnd to End(構想策定～設計開発～保守運用)で実現すること

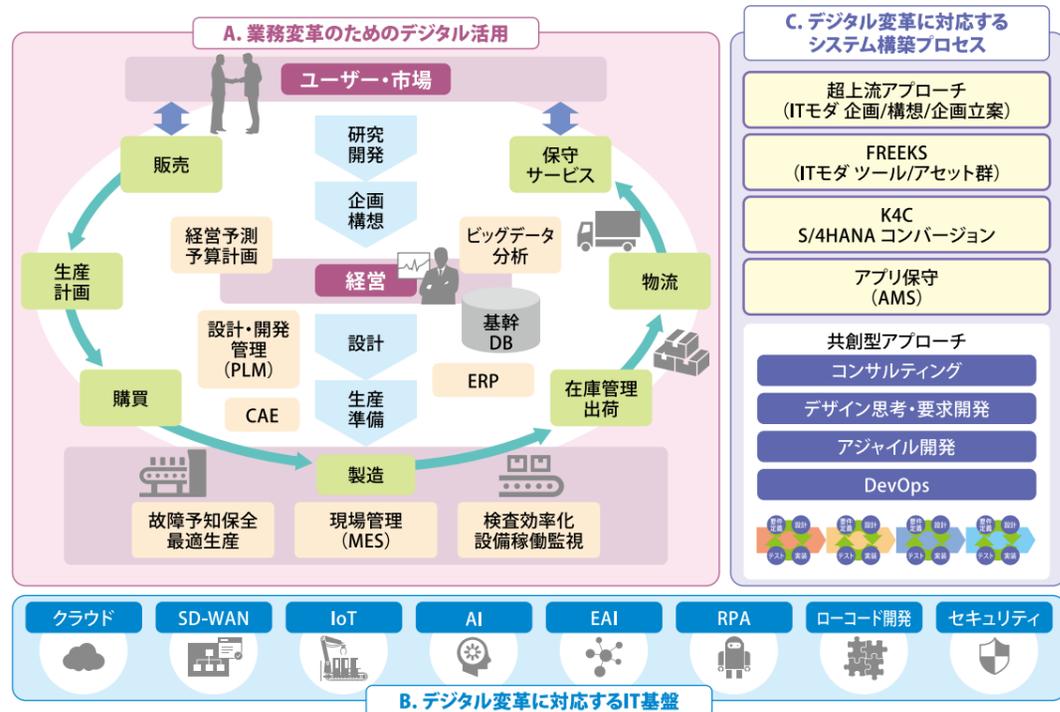
### コベルコシステムのデジタル・トランスフォーメーション(DX)推進の前提

- 新技術の活用  
IoT、AI、データ分析、クラウド、5G、高速開発 など
- 上流をリードする人材の育成(業務変革、デザイン思考、アーキテクチャー構想)

## コベルコシステムのDXソリューション

コベルコシステムでは、DXの領域を「A. 業務変革のためのデジタル活用」「B. デジタル変革に対応するIT基盤」「C. デジタル変革に対応するシステム構築プロセス」の3つの領域にわけて、DXソリューションを整備しています。

コベルコシステムのDXソリューション群は、製造業の業務変革やビジネス創出をデジタル活用により実現することを目的としており、このようなデジタル変革を実現するためには、変化対応力を備えたIT基盤を整える必要があります。また、これらを実現するプロセスとして、超上流と呼ばれる企画・構想段階からモダナイゼーションやコンバージョンを効率的に推進するアプローチやお客様との共創型のアプローチを重視しています。



## DXソリューションの取り組み

左下ページでご紹介しましたDXソリューションをお客様ニーズに適合する形で整備し、お客様とともにDXソリューション適用の実証実験(PoC: Proof of Concept)を実施しています。下表は2021年の主な実証実験(PoC)の実績です。

お客様	実証実験(PoC)内容	DX領域
製造業 A社	建設現場のテレワークシステムのアジャイル開発	C
	スマート工場実現に向けた3D CAD設計ソフトウェアの検証	A
製造業 B社	次世代超高速開発ツールを活用したシステム開発	B
製造業 C社	画像認識AI技術を活用した製品の検品検査	B
製造業 D社	データサイエンティスト教育	B
	ERPデータを活用した業務プロセスの分析	A
製造業 E社	先進技術、手法を活用した需要予測分析の評価検証	A
運輸業 F社	推進プロジェクトにおけるコンテナ基盤技術の検証と適用	B
製造業 G社	製造品の温度を測るカメラの試行	B
製造業 H社	自然言語処理のAI技術を活用した類似文書検索	B

※ 表のDX領域は左下ページでも紹介している3つの分野を指しています。  
A: 業務変革のためのデジタル活用 B: デジタル変革に対応するIT基盤 C: デジタル変革に対応するシステム構築プロセス

## DXソリューション適用事例

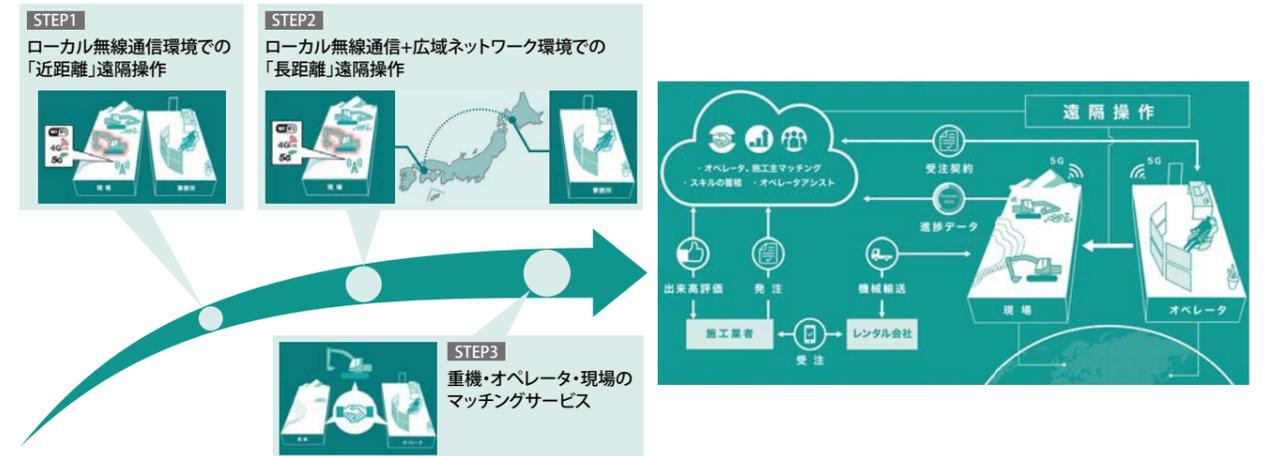
建設機械・運搬機械の販売、サービスを展開されているコベルコ建機様では、「誰でも働ける現場へ KOBELCO IoT」をテーマにさまざまなソリューションを展開されています。その柱の一つとして、建設機械の遠隔操作とクラウドマッチングシステムを融合させた「K-DIVE CONCEPT(以下K-DIVE)」があります。

コベルコ建機様は、このK-DIVE推進のため、IT大手でクラウド技術に強みを持つマイクロソフト社との協業を2019年に開始し、大きく3つのステップに分けて段階的に実用化を目指されています。

現在推進中のSTEP1では「近距離での遠隔操作」をターゲットに、ローカル無線通信環境を利用して現場内にある事務所からの遠隔操作を実施するための検証と開発を進めています。

コベルコシステムは、コベルコ建機様の長年のITパートナーとして、マイクロソフト社が進めてきたアジャイル開発の手法を踏襲し、これまで培ってきたクラウド技術を生かして、K-DIVEのシステム開発に参画しています。

K-DIVEのSTEP1は、2022年の実用化に向けて、開発・検証の最終段階へと進んでおり、当社は実用化に向けた開発をお客様とともに推進し、STEP2以降の開発、ならびに稼働後のシステムの運用保守にも貢献していきます。



# CSRを支える経営基盤

## CSR推進活動方針・推進体制

- ① ステークホルダーに対する「大切に想う気持ち」に根ざして、CSR活動を推進する
- ② コベルコシステムならではのCSR活動を展開する
- ③ さまざまな活動への参画を通じて、CSRへの理解を社内に広く浸透させる

コベルコシステムでは、CSRを「経営を支える大切な取り組み」と位置付けており、経営ビジョンを実現するための活動として推進しています。

設立20周年にあたる2007年、社会的責任を果たすためのさまざまな活動を整理・体系化、2009年にはCSR推進委員会を設立し、2010年に「CSR推進活動方針」を策定しました。これまで、コンプライアンスの強化と情報セキュリティの強化、リスクマネジメント、適正取引の推進、社会貢献活動の充実を目指して活動してきました。

CSR推進委員会は経営会議の諮問機関として、社長をオーナー、CSR担当役員を委員長とし、各部門から選出されたCSR推進委員で

構成されています。この委員会が全社のCSR推進活動方針に基づいた重点活動領域の設定、個別テーマのワーキンググループによる活動、社内外へのCSR情報の開示などのコミュニケーション活動を担っています。

2012年4月には、適正取引に関する活動をしていた「適正取引推進委員会」をCSR推進委員会に「適正取引部会」として統合し、コンプライアンス強化の一環として推進する体制に再編しました。また、これらの活動を幅広くステークホルダーの皆様にご理解いただくために、2010年からCSRレポートを発行しています。

## コベルコシステムのステークホルダー

### お客様

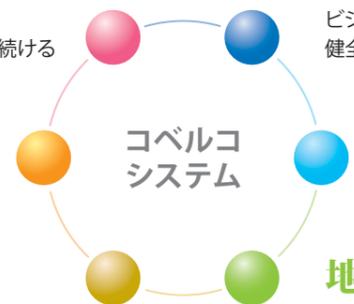
ITソリューション/サービスを通じてお客様の発展とチャレンジに貢献し続ける

### 社員

企業発展の原動力である社員一人ひとりが活力を高め、最大限のパフォーマンスを発揮できる職場を実現する

### 株主

日本IBM、神戸製鋼所のグループの一員として企業活動を推進する



### ビジネスパートナー様

ビジネスパートナー様と健全でWin-Winの関係を築く

### 行政

法令などを正しく理解・遵守し、行政との良好な関係を保つ

### 地域社会

当社の得意とする知識や保有する経営資源に即して、企業市民として社会への貢献を確実に実行する

## 取得済の認証・認定・許可



■ ISO9001 適用部署：  
ソリューション事業部  
クライアント事業部 エンタープライズ本部  
クライアント事業部 OS本部 第4サービス部  
ICT本部  
営業本部

■ 登録活動範囲：  
製造業、流通業及びその他の産業向け 顧客要求事項に基づくソフトウェアの設計・開発・製造及び付帯サービス(教育、移行支援及び取組対応)



■ 登録組織：システム事業部 ICT本部  
■ 登録範囲：インフラソリューションサービスの提供  
■ 規格：JIS Q 27001:2014 (ISO/IEC 27001:2013)  
■ 登録番号：JSAI 003  
■ 有効期限：2024年4月20日  
■ 登録認証機関：日本規格協会ソリューションズ株式会社 審査登録事業部



■ 認証範囲：情報システムに関するハードウェア製品、及びソフトウェア製品の提供  
情報システムに関するビジネスコンサルティング、構築、運用、保守及びその他のサービスの提供  
スポーツに関する事業の運営、コンサルティング  
上記事業に関連する管理業務  
■ 規格：ISO/IEC 27001:2013, JIS Q 27001:2014  
■ 認証番号：4445190-5D  
(この認証書は4445190の一部を構成するものです)  
■ 有効期限：2022年11月15日  
■ 登録認証機関：ビューローベリタスジャパン株式会社

兵庫県知事許可一般建設業(電気通信工事業)  
[許可番号/ (般-28) 第114641号]

## ガバナンス推進体制

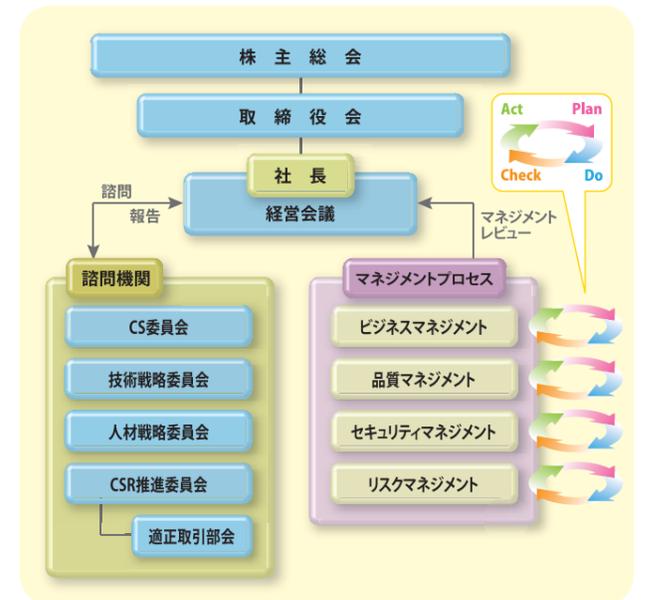
株主総会を起点とし、取締役会、および経営会議を基盤とする経営管理体制によって運営しています。取締役および執行役員の任期は1年として各年度の経営責任を明確にし、経営環境の変化にも迅速に対応できる体制としています。

取締役会は、3ヶ月に1回の定期開催、および必要に応じて随時開催し、業務執行の基本となる意思決定や監督を行っています。経営会議は、経営戦略や重要施策の策定など、経営上の重要事項を審議・決定します。

コベルコシステムは、米国に本社を置くIBMグループの一員であり、SEC(米国証券取引委員会)の会計基準および米国SOX法に準拠したIBMの内部統制の配下にある会社です。

最高経営責任者(社長)および最高財務責任者(管理部長)は、四半期単位で財務諸表が正確であること、内部統制が健全に機能していることをステークホルダーに宣誓しています。

業務の有効性や効率性、財務諸表の健全性や信頼性、法令遵守などコベルコシステムの内部統制環境が機能していることを保証するためにSOXテストやモニタリングを実施しています。



## コンプライアンス推進体制

お客様に信頼される真のパートナーになるために、法令などを遵守するのはもちろん、企業倫理に則した行動を取ることが必須です。コベルコシステムでは、「IBMビジネス・コンダクト・ガイドライン」(BCG)を適用した「コベルコシステム企業倫理規程」を制定し、社員一人ひとりが行動する際のガイドとしています。

また、企業活動を取り巻く、多様化、複雑化、かつ高度化するリスクに対して適切に対応することも求められるため、コンプライアンス推進活動の一環としてリスクマネジメント活動を継続しています。これは、リスク管理チェックリストを使用した自主点検を中心とする

取り組みで、その結果に基づき、残留リスクへの改善策を策定し実施するPDCAサイクルを回しています。

当社は、ビジネスパートナー様とともにプロジェクトを遂行するため、ビジネスパートナー様との取引が適正に行われているかどうかの確認も重要です。このため、「発注者の請負の適正化のための自主点検」チェックリストを使用した自主点検を実施し、その結果に基づき、懸念のある項目に対しては適正取引部会が責任者へのヒアリングを実施して具体的な懸念の内容を確認し、改善に向けたアドバイスや対応策の指示などを行っています。

## 2021年度 リスクマネジメント推進活動

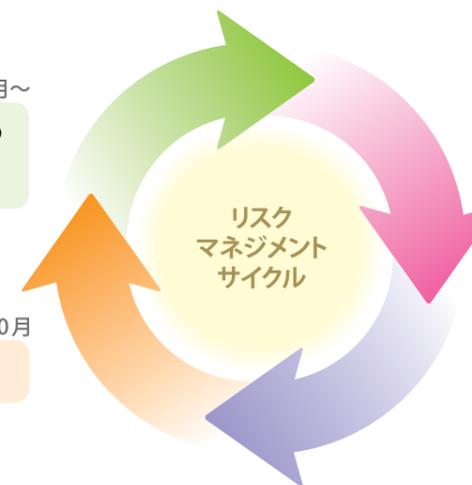
2021年4月～2022年3月

Act 2021年10月～

- 幹部・ビジネスの責任者へのフィードバック
- 是正・改善の実施

Check 2021年10月

- 自主点検結果の評価



Plan 2021年4月～6月

- リスクマネジメント整備・浸透
- 前年の自主点検結果を反映したリスク管理チェックリストの改訂
    - 本社部門用(規程・ガイド制定側)
    - 現業部門用(規程・ガイド遵守側)
  - 新リスク管理チェックリストのための自主点検実施ガイド

Do 2021年7月

- 新リスク管理チェックリストによる自主点検の実施

# お客様から信頼されるパートナーになるために

コベルシステムでは、「お客様満足度向上活動」を経営を支える大切な取り組みと位置づけ、お客様の声に耳を傾け、お客様のご期待を超え、お客様に感動していただける会社作りに取り組んでいます。お客様に愛され、お客様から信頼される真のパートナーとなることをコベルシステムは目指しています。

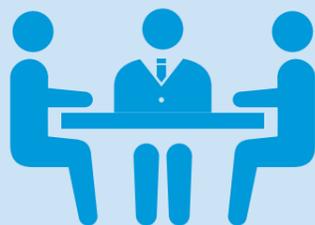
お客様から 選ばれ続けるために

## CS (Customer Satisfaction) 調査

お客様がコベルシステムに求めていることを知り、その思いに真摯に応えることで、お客様の真のパートナーであり続けたいと考えています。そのための方法としてお客様からのご意見やご評価をいただく「CS調査」を行っています。CS調査は、コベルシステムの活動全般に関する「お客様満足度調査」、構築・開発プロジェクトに関する「プロジェクト満足度調査」、運用保守サービスに関する「サービス満足度調査」の3種類を適時に行っています。

## 改善内容のお約束

CS調査でお客様からいただいたご意見をもとにお客様の課題とコベルシステムへの期待を確認し、今後の改善内容についてお約束しています。コベルシステムでは、お約束した内容に基づき改善活動を行っています。



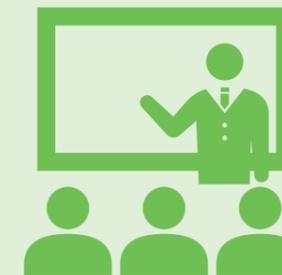
継続的な改善活動

Be a Trusted Partner

毎年、レベルアップ

## 活動結果のご報告

お客様とお約束した改善の進捗状況や達成状況をお客様に報告し、お客様の期待に応えることができたかを評価していただいています。活動が不十分であったり、さらなる課題についても確認し、継続して活動していきます。



## 業務改善活動

以前はCS改善活動という名称で実施していましたが、すべての改善はCS向上につながるという考えのもと、名称を業務改善活動に変更して全社的に実施しています。

2021年は、過去最高の114チームが結成され、548人の社員が改善に取り組みました。

改善の成果は、業務改善活動発表会にて共有されます。2021年は新型コロナウイルス感染症の影響もありオールリモートでの発表会形式で実施しました。発表会では、役員による審査の他、社員による投票結果も加味して最優秀賞を選定しています。

また、発表内容については録画内容をイントラネットで公開することにより、発表会に出席できなかった社員も閲覧できるようにして、成果や知見の共有を図っています。

## CS委員会

会社としてCSについて検討する場としてCS委員会を設置しています。メンバーはCS担当の役員であるCS委員長と、各部門の代表であるCS委員で構成され、CS向上につなげるために社内プロセスや施策の変革に取り組んでいます。社員のCS意識の向上につなげ、ひいてはお客様から選ばれ続ける会社となるべく、満足度の向上をリードしています。

## CS研修

社員のCS意識のレベルアップを目指して、CSに関するeラーニングを実施しています。2021年版の内容は、お客様視点経営から始まり、CSの観点から見たDXの取り組みを考えるものであり、全社員、全役員が受講しています。また、社員のCSマインドを高める場として、選抜したメンバーによる集中討議会を実施しています。CSに関するテーマに沿って意見を交わし、新たな考えに気づくことにより、CSマインドの向上を図っています。

## CSスローガン

社員からの公募によるCSスローガンを選定しています。スローガンは毎年100件前後が社員からエントリーされ、これらを社員投票により、年ごとのCSスローガンとして選定しています。また、選ばれたスローガンはポスター化して、社内各所や会議室などに掲示し、スローガンが絶えず意識できるようにしています。



2022年 CSスローガン

## CS通信

社員のCSマインドをリマインドする機会として、毎月1回、全社員向けにCSに関するメールニュース（CS通信）を発行しています。内容はCS委員が持ち回りで体験やエピソードを記したCSコラムがメインとなっています。全社員が毎月リアルな体験をベースとしたコラムを読むことにより、CSについて考え、振り返るきっかけとしています。

# セキュリティなくしてビジネスなし

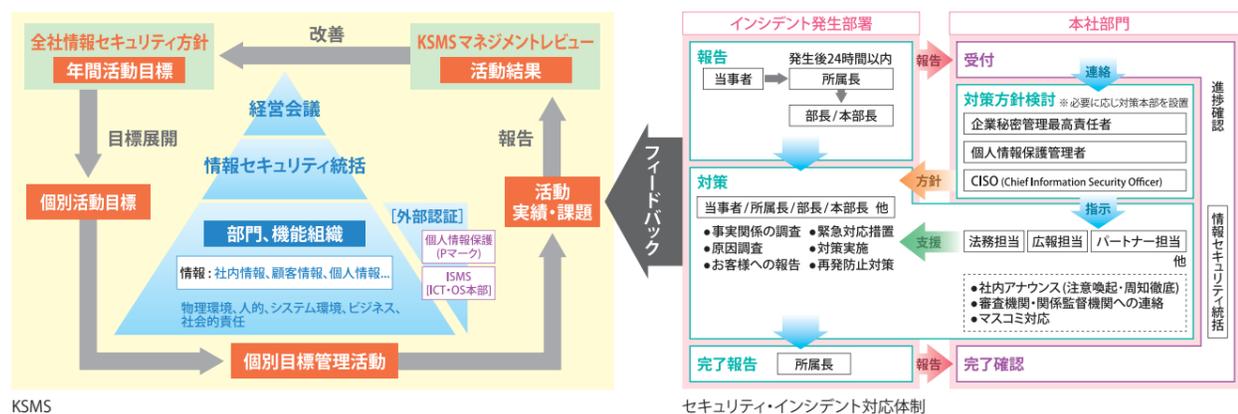
## コベルシステム情報セキュリティマネジメントシステム

KSMS : KOBELCO SYSTEMS information Security Management System

インターネットは、社会の経済活動に欠かせないインフラへ成長するとともに、個人情報の漏えい、詐欺、窃盗やテロなどが大きな社会問題となっています。

情報システムを本業とする当社は、関連会社も含め、KSMSというセキュリティマネジメント体系を定めてセキュリティ活動を行っています。KSMSでは、経営幹部によるマネジメントレビューの

もと、情報セキュリティポリシーの設定・見直し、および「物理環境」「システム環境」「人的」「ビジネス」「社会的責任」の各視点でセキュリティ活動のPDCAを回し、リスクの変化に適応したセキュリティ水準を維持しています。また、セキュリティ・インシデントへの対応は、全社で体制を整備・運用し、全社のセキュリティ活動にフィードバックしています。



KSMS

セキュリティ・インシデント対応体制

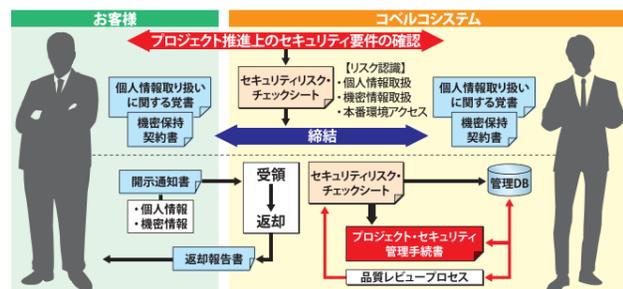
## プロジェクトセキュリティプロセス

PSP : Project Security Process

コベルシステムでは、プロジェクトのQCD管理に加え、2009年からPSPによるセキュリティ管理を推進、強化してきました。

PSPとは、プロジェクトごとにセキュリティリスク(個人情報の取り扱い、機密情報の取り扱い、本番環境アクセス)を把握したうえで、お客様とリスクを共有し、対応策を実施していくセキュリティ管理手法です。

お客様からお預かりしている情報資産を守ること、そしてその情報資産へのアクセスを管理することがコベルシステムの使命と考え、プロジェクトのセキュリティを確保しています。



プロジェクトセキュリティ対策概念図

## 情報セキュリティマネジメントシステム

ISMS : Information Security Management System

コベルシステムのISMS認証は、2003年のハウジングサービス事業から始まり、適用範囲を徐々に拡大して、現在ではICT本部全体で認証を取得しています。

また、クライアント事業部アウトソーシング本部でも日本IBMグループの統一認証を取得しています。

お客様からお預かりする大切な情報資産を守るため、技術的なセキュリティ対策と組織全体のマネジメントの両面から、高度なセキュリティ管理のもとでサービスを提供します。

## 個人情報保護の推進

お客様、社員の個人情報を適切に保護することは、コベルシステムの重要な責務です。

コベルシステムは、プライバシーマーク制度の付与事業者となった2000年以降更新を重ね、個人情報を適切に保護する措置を構築しています。

また、毎年、全社員を対象に情報セキュリティ研修を実施し、個人情報保護の理解を深めるとともに意識の向上に努めています。

# 品質向上活動に終わりは無い

## 2022年 全社品質方針

お客様事業の活性化 (Vitalization) に貢献するために、品質マネジメントシステムを継続的に改善し、高品質なサービスを提供する

## 品質マネジメントシステム

KQMS : KOBELCO SYSTEMS Quality Management System

当社は、ISO9001に準拠した品質マネジメントシステム(KQMS)を構築・運用し、製品・サービスの品質向上に取り組んでいます。

全社品質方針・目標を定め、マネジメントレビューのもとで、組織的にQCDの管理レベルの向上を図っています。また全社共通のQCD管理サイクルを制定し、プロジェクト情報を一元管理しています。

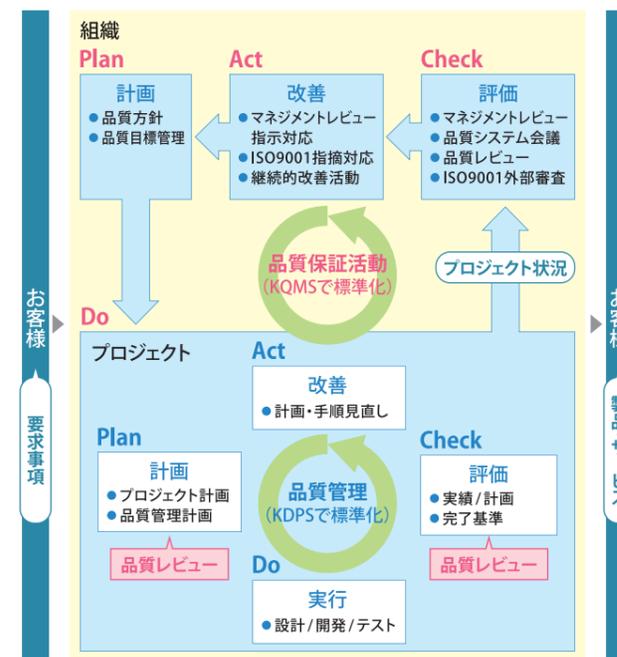
※QCD: Quality (品質)、Cost (コスト)、Delivery (進捗)

## 開発プロセス標準

KDPS : KOBELCO SYSTEMS Development Process Standards

KDPSは、当社独自のプロジェクト管理手順をシステム開発・構築プロセスの標準として組み立てたものです。

プロジェクト計画や検証活動の手順・様式を充実させ、管理作業効率向上のための雛形や管理ツールも準備しています。



品質マネジメント体制

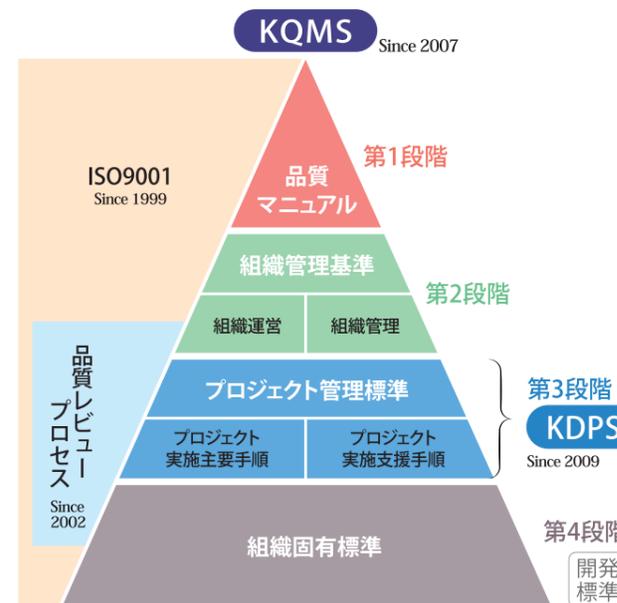
## 品質レビュープロセス

個々のシステム開発・構築が、お客様のご要望を満たし、高品質かつ所定のコスト内で確実に実現できるようにするため、当社独自の品質レビュープロセスを実施しています。

このレビュープロセスは、お客様への提案段階からサービス実施期間全体を対象とし、サービスの成功を脅かすリスクの特定・定量化・対応策の策定を行うため、特別に訓練されたレビューアにより実施されています。

## ISO9001:2015の認証

当社は、1999年にISO9001:1994の認証を取得し、現在はISO9001:2015の認証を維持しています。これからもお客様満足の向上を目指して、品質マネジメントシステムの継続的改善を行っていきます。



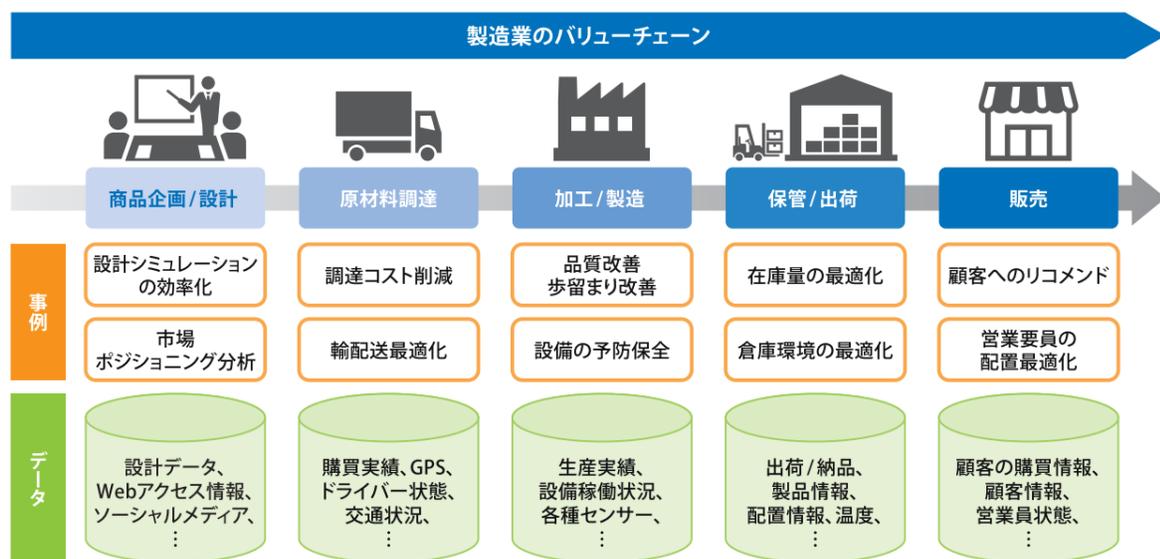
品質マネジメント体系図

# 先進技術への取り組み強化

## デジタルイノベーションセンター

当センターでは、AI、データ分析、IoTの技術検証とビジネス化を推進しています。データ分析では、製造業様向けの予測分析ソリューションを提供しています。お客様とともに有意義なデータ活用方法の検討から、簡易データ分析、ツール教育、分析代行などのご支援を行っています。

昨今、自社内で分析作業ができる技術者を育成したいとの要望も増加しており、データサイエンティスト研修(報告編)を新たに追加しました。分析技法だけでなく、思考力(問題解決、思考法、など)、ビジネススキル(表現力、伝達力、など)、データ倫理などの講義を行っています。また、知っているだけでなく実際に手を動かしていただくことも重視しており、お客様の実データをもとにした演習課題での報告書作成や発表も実施しています。受講者からは「いろいろなデータ解釈、整理があり、説明の仕方もあると他の人との比較ができたので、学ぶ点が多かった。」「ユーザー側の立場を意識した提案をしていく重要性を学べた。」などのコメントをいただいています。今後もお客様のデータリテラシー向上に寄与していきます。



## 先進技術カンファレンス

卓越した技術のコベルコシステムをめざすべく社員の技術力向上とノウハウ共有を目的に、社内向けに「先進技術カンファレンス」を年1回開催しています。

本カンファレンスは、社外から招いた講師による先進技術についての基調講演とIT業界やお客様から注目される技術に取り組んでいる社員による事例紹介を中心としたセッションで構成しています。

毎年、システムエンジニアを中心に多数の社員が出席し、日頃の業務とは異なる分野での技術や適用事例に触れ、刺激を得る機会にもなっています。2021年は昨年に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響を鑑みて、リアルタイム配信と事前に発表内容を撮影した録画配信のハイブリッド構成で開催いたしました。また、近年注目を集めているアジャイルについて、アジャイルDayセッションとしてリアルタイム配信のプログラムとして組み込み形で開催いたしました。

### <2021年のプログラム>

- 基調講演：～ものづくりの現場を変えるDXとクラウドネイティブ～  
アジャイルプラクティスに見るアーキテクチャの考え方
- 基調講演(アジャイルDay)：『老舗メーカーにみんなでアジャイルを導入しました』  
～『俺がやる』から『みんなでやる』に至るまで～
- 録画配信：下表にある4種類の録画済セッションを期間限定で社内公開

セッション分類	概要	件数
社内DX事例	各本部で取り組んでいるDXソリューションと適用事例の紹介	5件
テクニカル	先進技術への取り組み状況や社内アセットの紹介	6件
技術コミュニティ	技術・スキル強化に向けた研鑽活動を行っているコミュニティ活動報告の紹介	8件
社長賞	会社への貢献や成果が認められたプロジェクトに対し与えられた賞の紹介	7件



リモートからの司会進行の様子



録画配信の視聴画面



社長挨拶

# 外部からの評価

## 感謝状・アワード

コベルコシステムにとって一番の喜びは、お客様からの「ありがとう」です。コベルコシステムが実施した先進的なプロジェクトやアセットビジネスの取り組みなどを評価いただき、2021年もお客様やビジネスパートナー様から感謝の声をいただきました。

### 神鋼リース様<sup>(※1)</sup>

神鋼リース様は2020年度、親会社変更に伴う情報システム基盤の刷新と、ニューノーマル時代を見据えた営業体制の変革に舵を切りました。

2020年7月～12月に実施した情報システム基盤刷新プロジェクトでは、既存のVDI環境にOffice365 E3+EMS E3を導入し、デバイスの種類や場所を問わず利用できるデジタルワークプレイス環境を整備し、Office365 Teams (VDI、スマートフォン、TeamsRooms)を中心として、社内コミュニケーションを強化し、非対面営業の本格化を早期に実現しました。

このプロジェクトを短期間で問題なく完遂したことに対し、神鋼リース株式会社様から感謝状をいただきました。



※1 神鋼リース様: P.18にお客様事例を紹介

## 第62回田宮賞 銅賞

「コロナ禍での在宅勤務環境整備による神鋼グループへの貢献」が、第62回田宮賞の銅賞を受賞しました。

今回の受賞は、お客様である株式会社神戸製鋼所 IT企画部様との共同申請での受賞でした。

田宮賞は、KOBELCOグループの「ものづくり」を支えた事業に与えられる由緒ある賞です。

当社はこれで6度目の銅賞を獲得しました。



これからも、お客様やビジネスパートナー様から笑顔で感謝のお言葉をいただけるよう、また、お客様にとって一番のTrusted Partnerとなれるよう、尽力していきます。

## mcframe Award 2021「Project of the year」

mcframeパートナー総会2021において、「mcframe Award 2021 Project of the year」を受賞しました。

「2025年/2027年問題」を踏まえ、mcframeを含めた提案活動への取り組み、既存のERPシステムをmcframe7とSuperStreamNXへの刷新を提案し、無事本稼働させ、従来システムにて課題となっていた生産計画、品質管理、原価管理の実現、それらをモバイルで活用するなどの効果を上げたことが評価されました。



## 国土交通省 国土交通行政関係功労者表彰

国土交通省近畿地方整備局六甲砂防事務所が推進する六甲山系グリーンベルト整備事業に「森の世話人」として2010年から参画し、Kocoroちゃんの森を12年にわたり整備してきたことが評価され、国土交通省近畿地方整備局から国土交通行政関係功労者表彰(水門・河川愛護部門)が贈呈されました。

河川愛護功労者部門で表彰されたのは、六甲砂防事務所が国土交通省近畿地方整備局河川部所属の現業部門ということで、砂防のための森づくりが、山から流れ出る河川の改善につながることから、「多年にわたり森づくりに従事し、功績が顕著な団体」として表彰されたものです。



# お客様事例紹介

## アイカ工業株式会社様

アイカ工業株式会社様(代表取締役 社長執行役員 小野勇治様)は、接着剤などの化成品や、メラミン化粧板などの建築建材を手がけるメーカーです。近年は海外展開にも注力しており、M&Aを活用しながら生産・販売拠点の拡充を図っています。

アイカ工業様は、創立90周年を迎える2027年3月期に向けて、「アイカ10年ビジョン」を策定し、国内建設市場の動向に左右されにくい骨太な経営体質への変革を目指しています。一方で、受注、見積り、納期回答、配送、購買などの重要な業務を支えるWeb業務システムは老朽化が進んでいました。結果、システムのブラックボックス化が進み、業務部門からの機能改善の要望にも応えることができていたのです。

このままではWeb業務システムが経営の足かせになると危機感を抱いたアイカ工業様は、これを全面的に刷新することを決断しました。新たなシステムでは、拡張性と保守性に優れたマイクロサービスを採用すると同時にセキュリティの強化を図ることとし、開発パートナーにはコベルコシステムを選定いただきました。

再構築プロジェクトは2019年1月からスタートし、2021年5月にサービスインを迎えました。新たなWeb業務システムでは機能群が疎結合で連携しており、容易な開発・改修・運用が可能になっています。これにより、業務部門の要求へ迅速に応えることが可能になりました。セキュリティ面でも大幅なレベルアップが実現し、脆弱性を排除した堅牢性の高い仕組みの導入により、不正アクセスなどによる情報漏洩のリスクを軽減することができました。



「これからは即座にシステム内へ新機能を取り込むことができます。現在、業務部門からさまざまなリクエストが続々と届いていますので、順次対応していく予定です」  
(情報システム部長 沖永 剛義 様)

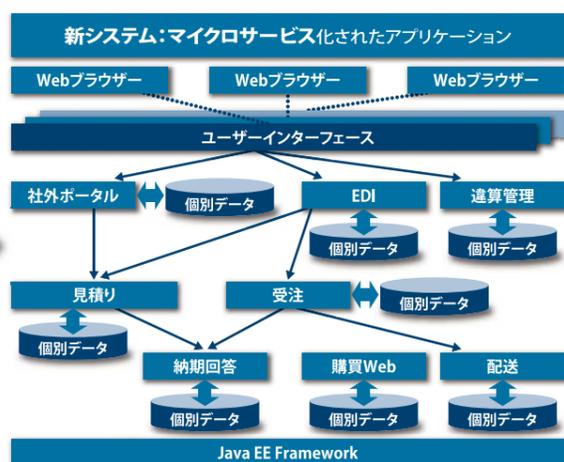


アイカ工業様の代表製品 メラミン化粧板

アイカ工業様は、今後もWeb業務システムの強化を通じて多様なビジネスニーズに対応しつつ、中期経営計画のさまざまな戦略に取り組む予定です。また、これにあわせて基幹システムをSAP S/4HANAへ移行することも計画しており、コベルコシステムにアセスメントとともに準備を進めています。コベルコシステムは、今後もアイカ工業様による製造DXの推進を支援していきます。



当社社員と一緒に  
(左から二番目 情報システム部長、DX/業務効率化支援グループ長 沖永 剛義 様)



## 神鋼リース株式会社様



神鋼リース株式会社様(代表取締役社長 松井由人様)は、1984年の創業以来、KOBELCOグループの総合リース会社として、建設機械を中心に、全国各地のお客様にサービスを提供してきました。現在は、新生銀行グループの昭和リース株式会社様と、株式会社神戸製鋼所様の共同出資会社として、お互いのグループの総合力を活かし、ファイナンスに留まらず、多彩な金融ソリューションを提供しています。

2020年春ごろから日本でも拡大を見せたコロナ禍をきっかけに、神鋼リース様では当初予定していた働き方改革の拡充について、前倒しで取り組むことになりました。しかし、従来のシステム環境では、従業員の働く環境の安心・安全を担保しつつ、ストレスなく業務を継続することは困難でした。そこで同社は、

これまでの実績やスピード感のある柔軟な対応を評価し、コベルコシステムに新たなシステム環境の構築を依頼しました。同社の依頼に対し、コベルコシステムは、オフィスワークやリモートワーク・テレワークを組み合わせた、ハイブリッドな働き方を前提とする「ハイブリッドワーク環境構築サービス」によるITインフラ環境構築の提案を行い、採用いただきました。

プロジェクトにあたってはMicrosoft 365による統合コラボレーションツールの導入と移行、薄型・軽量のノートPCとスマートフォンによるモバイル業務端末への切り替え、事業所間やオフィス内での快適で柔軟なアクセスを実現するためのWANおよび無線LANの導入を推し進めるとともに、VDI(仮想デスクトップ基盤)によって金融会社に必須のセキュアな環境も確保しました。そして、約3ヶ月という短期間で、従業員が社内外で場所を選ばず、安心・安全に働ける環境を作り上げました。

ハイブリッドワーク環境構築後の効果について、取締役の中島敦様は「今回導入した環境により、会議や研修の多くがMicrosoft Teamsに移行し、会議にかかる時間やコストが削減されました。営業担当者がお客様とフレキシブルにTeamsでやり取りする機会も増え、業務効率化や生産性向上にもつながっています」と述べられています。



神鋼リース様 本社(提供元:株式会社 神戸製鋼所)

今後、神鋼リース様では事業戦略の中心に据える「サステナビリティ」を体現するためDXを推進していく方針です。コベルコシステムは、これからも同社のパートナーとして、付加価値の高い提案を通じてビジネスの発展に貢献していきます。

※2022年4月1日から、神鋼リース株式会社は新生コベルコリース株式会社に商号(社名)変更されます。

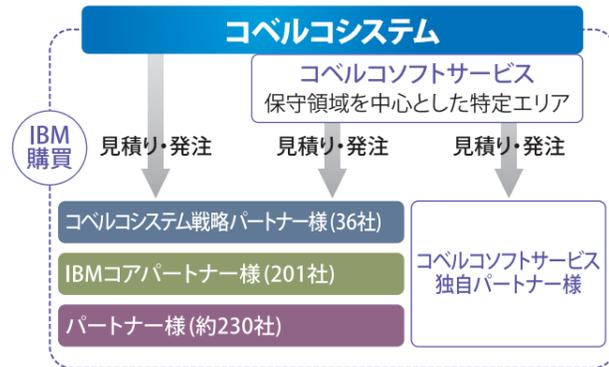


当社社員と一緒に  
(左から二番目 取締役 中島 敦 様、右から二番目 企画部インフラサービスチーム シニアマネージャー 梶野 智華 様)

# 公正なパートナーシップの維持

## より強固なパートナーシップの構築

2016年1月から、コベルコシステムでは、「コベルコシステム戦略パートナープログラム」を導入しています。このプログラムは、価格競争力を保ちつつ、品質の高いサービスをご提供いただけるパートナー様と戦略的パートナーシップを結ぶことで、お客様へさらに価値あるサービスを提供することが目的です。



戦略パートナー様には各社の強みや技術者情報などをご提供いただき、当社からは今後のビジネスを優先的にご紹介するなど情報連携を強化しています。それによって、より高いセキュリティ遵守、適正取引などの法令遵守の相互協力、また、見積りプロセスの簡素化や品質評価のフィードバックの実施など、相互にメリットをもたらす、より強固なパートナーシップを構築しています。

### 当プログラム対象パートナー様のメリット

- ビジネスを優先的にご紹介
- コベルコシステムとのリレーション強化の場の提供 (パートナー会 など)
- CSA (新見積りシステム) でのバイヤレス (IBM購買バイヤーを介さない) プロセスの実現による見積りプロセスの簡素化と発注までのリードタイム短縮
- パートナー推進グループとの定期的な意見交換および双方のビジネス拡大に向けた取り組みを協業して実施
- IBM主催の研修の割引価格での受講
- セミナー/研修への参画
- 品質評価フィードバックの実施

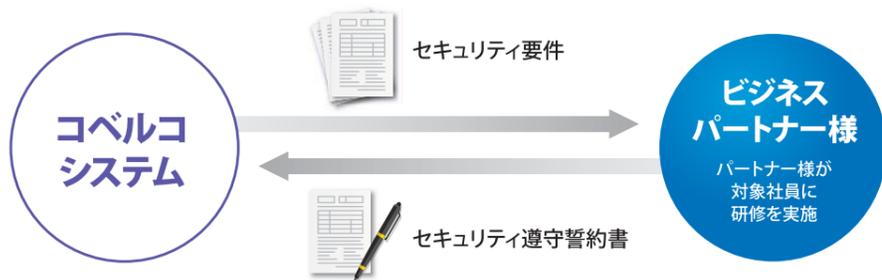
## 一体となってセキュリティを確保

当社は、ビジネスパートナー様とともにプロジェクトを遂行しています。その際、ビジネスパートナー様には、当社の社員と同等の基準でセキュリティを確保し、お客様に安心をお届けできるようご協力いただいています。

当社は、社員に対し、セキュリティ事項の遵守、徹底を図るために、毎年内容を見直して研修を実施しています。また、ビジネス

パートナー様に対しては、各社の責任者に依頼し、対象社員に向けて研修を実施していただいています。2021年度のセキュリティ研修においても、対象者全員が十分な理解状況にあることを各社からの履修理解度報告で確認しています。

これにより、当社とビジネスパートナー様が一体となって、お客様のセキュリティ確保につなげています。



## 適正取引の推進

当社は、ビジネスパートナー様へのそれぞれの業務委託方式にあわせた発注・進行管理を行っています。それらを適正に行うために、CSR推進委員会内に「適正取引部会」を設け、適正取引ガイド、eラーニングなどにより、具体的なガイドを社内に徹底する一方で、ビジネスパートナー様に対しても、必要に応じて情報発信やアンケート調査、個別訪問の実施などを通じてその理解と実践をお願いしています。

主な取り組みは、以下の3点です。

- ① ビジネスパートナー様における適正取引状況の調査
- ② ビジネスパートナー様の再委託先活用状況確認
- ③ 請負の適正化のための自主点検実施および実態調査

これらの活動により、ビジネスパートナー様との健全な関係を維持し、お客様をサポートしています。

## ビジネスパートナー様へ表彰

当社2020年度下期・2021年度上期 社長賞受賞プロジェクトにおいて大きく貢献いただいた、ビジネスパートナー様へ感謝状を贈呈させていただきました。(コロナ禍のため授賞式をせずご連絡のみとなりました。)

### 【ビジネスパートナー様】

自動車用超ハイテン鋼設備建設に伴う大規模システム開発の完遂プロジェクト

- アソート株式会社様
- 株式会社サイプレスソリューションズ様

次期基幹システム構築プロジェクト

- 株式会社エヌワンシステム様

### ビジネスパートナー様の声

アソート株式会社 代表取締役 阿曾 俊二 様

当社は、創業当初からさまざまなプロジェクトに参画させていただいて大変お世話になっており、お蔭様で創業20周年を迎えることができました。ひとえにコベルコシステム様の「ともに」の精神のお蔭であり、この場をお借りして感謝申し上げます。

2021年も新型コロナウイルスによる感染拡大が日常に大きな影響をもたらしましたが、新しいワークスタイルへの変革が促進された一年でもありました。

コベルコシステム様から「新型コロナ対応方針のタイムリーな共有」や在宅勤務体制への切り替え、各事業所でのパーティションの設置やマスク、アルコール消毒などの衛生品の供給を社員、パートナーの分け隔てなく推進いただきましたお蔭で、感染者を出すこともなく業務を遂行することができました。また、一連の新型コロナ対応を参考にさせていただき、弊社における感染症対策を定め、弊社受託開発部門や総務部門において在宅勤務を実現できました。

コベルコシステム様の長期経営ビジョン「Be a Trusted Partner」の実現をパートナーの立場からも貢献できる「ともに」の精神のもと、適正取引の推進、情報セキュリティの確保、コンプライアンスの遵守、業務遂行力の4つの視点でもコベルコシステム様社員と同等のレベルを実現できるようご指導いただいております。

これからも「健全でWin-Winの関係を築く」パートナーの一社でいられるよう、またコベルコシステム様のご期待にお応えできる企業であり続けるよう、継続的に社員のレベルアップを図り、貢献できるよう精進してまいりますので、ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

末筆になりましたが、貴社の益々のご発展をお祈り申し上げます。



アソート株式会社 代表取締役 阿曾 俊二 様  
(兵庫盲導犬協会、介助犬協会への社会貢献活動時から)

## ビジネスパートナー様への感謝 (ニューノーマルへの取り組み)

2021年は新型コロナウイルス感染症のまん延防止のため、ニューノーマルへの取り組みをブラッシュアップしながら、社員ならびにビジネスパートナー様とも隔たりなく、コロナ禍を乗り越えるため一体感を持ち、以下の取り組みを実施してきました。

- ① 当社の新型コロナウイルス感染症対応方針をタイムリーに各社へ発信 (全5回)
- ② お客様とも協議したうえで、積極的な在宅勤務体制への切替推進
- ③ 各取引先とも在宅勤務の覚書締結と感染予防へのシフト調整
- ④ 在宅勤務ができない場合にも、マスク、アルコールなどの衛生品の供給およびパーティション設置などで感染予防環境の整備

その結果、ビジネスパートナー様のメンバーを含め、感染者を最小限に抑えて、業務に支障なく現在まで活動を続けています。(昨年度に続き、新型コロナウイルス感染症の影響もありパートナー会の開催は見合わせました。)

# 人材育成の仕組み

『コベルコシステムの最大の資産は人であり、社員一人ひとりの能力の最大限の発揮こそが会社発展の原動力である』という認識のもと、一人ひとりが互いを尊重し合いながらイキイキ働き、プロ

フェッショナルとして人間として成長できる会社の実現』を人事基本理念に据え、「期待する人材像、人材要件」を下記の通り定義しています。

- ① ITのプロフェッショナルとして、常に自らの専門性を磨き、高めるとともに、時代や環境の変化に、柔軟に自分で考えて動くことができる人材
- ② 人と協働し、他も活かし、組織・チームの目標達成のために、組織・チームの能力の最大化と最大限発揮に貢献できる人材
- ③ 社会人・企業人として、社会や会社のルールを遵守し、お客様に対しても常に責任を持って誠実に対応できる人材

## 複線型プロフェッショナル職制度を基軸に～コベルコシステム認定プロフェッションを目指して～

これらを具現化する仕組みとして、社員一人ひとりの能力の最大限の発揮を追求する複線型プロフェッショナル職制度を採用しています。

そしてハイレベル人材の育成・登用および各職種を目指す人材像として、KCP認定制度(KOBELCO SYSTEMS Certified Profession)を設けています。

専門職 職位	ライン 専門職	コンサルタント 専門職	セールス 専門職	プロジェクト 専門職	IT 専門職	経営スタッフ 専門職	事務 専門職	対外呼称
管理職群	本部長	コンサルタント	KCP チーフ・エキスパート			経営スタッフ	主任・係長	KCP認定者
	部長・ センター長	コンサルタント	KCP シニア・エキスパート					
	グループ長・ 室長	コンサルタント	KCP エキスパート					
一般職群		コンサルタント	KCP認定			担当部長	主任・係長	KCP認定者
		セールススペシャリスト	プロジェクトスペシャリスト	ITスペシャリスト				
		セールススペシャリスト	プロジェクトスペシャリスト	ITスペシャリスト				
		セールス	システムエンジニア					
	セールス	システムエンジニア						
	セールス	システムエンジニア						

複線型プロフェッショナル職制度 / スペシャリスト試験制度 / KCP認定制度 / アプリケーションマスター制度

## 教育・研修体系

コベルコシステムでは、「すべての質を高めよう」という狙いのもと、IT研修はもとより、ヒューマンスキルなどの普遍的要素の研修や、お客様の経営課題解決に寄与する、コンサルティング力、モノづくりや現場力の強化など経営戦略に即応した、さまざまな研修を実施しています。

また、社員全員が知識を習得するための必須研修、各階層や役割別の研修、個人の成長段階にあわせて受講できる研修や、それぞれのキャリアプランにあわせて選択・受講することができる通信教育やスマートフォンでも学習できるeラーニングなど、個人のスケジュールにあわせて効率よく利用できる環境も

提供しています。2022年も、お客様のパートナー(Trusted Partner)となれる人材の育成をさらに強化します。



## コンサルティング力強化プログラム

ITを取り巻く環境変化に伴い、現在コベルコシステムに求められているのは、お客様のビジネス環境やニーズを理解し、ともに経営課題を解決できる人材です。そのような状況を背景に、「ITベンダーからITパートナーへの変革」を目指し、2016年から開始したのが「コンサルティング力強化プログラム」です。

当プログラムでは、企業分析方法などの知識習得をはじめ、提案書作成、プレゼンテーションなどの講義や実践演習を通じ、さまざまなアプローチでお客様へ提案する際の姿勢やスキルを体得します。

プログラム期間は約1年間で、受講者は各部門から選ばれた若手～中堅層メンバーです。今後も継続的に実施し、お客様のパートナーとして活躍できる人材を増やしていきます。



## コンサルティング研修 受講者の声 ソリューション事業部 インダストリーソリューション本部 水島 敏郎さん

本研修は、企業分析から提案までのロールプレイといった実践的なカリキュラムに加えて、企業経営経験者も含まれるレベルの高い講師陣から経験に裏打ちされた視座の高いご指導を随所にいただくことができ、非常に説得力のある有意義な研修でした。

受講により、同じ情報でも視座の高低によって解釈が変わり、導き出される答えも大きく変わるということを実践的に学ぶことができました。受講前は担当案件や

所属チームへの影響といった単一の低い視座でしか情報をとらえられていなかったのですが、経営トップの高い視座から課題解決を目指すトレーニングを行ったことで、異なる高さから情報を見ることができるようになったことは大きな進歩です。

今後は、本研修で学んだことを業務に積極的に活用しお客様にとってなくてはならないITパートナーとなるよう、日々行動を積み重ねていきたいと思っています。



## グローバル人材育成プログラム

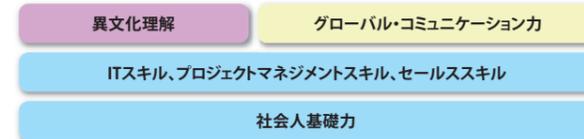
コベルコシステムが求めるグローバル人材とは、「社会人基礎力」や「ITスキル、プロジェクトマネジメントスキル、セールススキル」をベースに、「異文化を理解する力」「世界で幅広く通用するコミュニケーション力」というグローバル特有要件を兼ね備えた人材です。

2016年から、これまでの語学カサポートに加え、ビジネス上で語学力やコミュニケーションを活かせるグローバル人材の育成に重点を置いた当プログラムをスタートさせています。

当プログラムは、英語でのe-Mailライティングスキルや海外でのビジネスミーティングの進め方など、異文化コミュニケーションの

要諦を解説と実践演習による経験を通じて理解・習得する内容になっています。

今後は、グローバルビジネスで活躍できる人材輩出の環境づくりを積極的に行っていきます。



コベルコシステムが求めるグローバル人材要件

## グローバル人材育成プログラム参加者の声 クライアント事業部 アウトソーシング本部 大谷 愛さん

自身の育児休業をきっかけに英語の学習を少しずつ進めていた中、上長から本研修を勧めいただき、受講しました。

すべて英語でテンポよく進む研修はハードでしたが、メールや会議のフレームワーク、シチュエーション別での適切な表現など、ビジネスで必要な点にフォーカスした実践的な内容を学ぶことができました。また、プレゼンテーションや会議の演習を通して、他の受講生と楽しくさまざまな意見交換ができたことは、英語学習にお

けるモチベーション向上だけでなく、仕事への取り組み姿勢に対してもとてもよい刺激を受けました。また、有効な自己学習方法についても広い範囲で教えていただいたので、研修終了後も英語学習を継続し、将来的に海外案件などの業務に活かすことができたらと思います。

日々世界でさまざまな最新技術が生まれて情報が発信されていく中、語学力の一つの強みかと思っておりますので、少しでも興味がある方には強くお勧めしたいと思います。

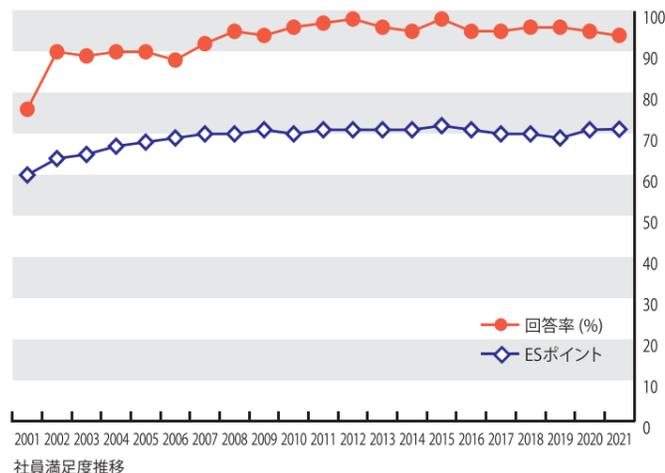


# 人材育成の仕組み

## 社員満足度調査

「社員満足 (ES) の向上がお客様満足 (CS) の向上につながる」という基本認識のもと、2001年から毎年、社員満足度調査を実施しています。全社員を対象に匿名で回答してもらうことで、社員の率直な意見を集め、課題の分析や改善策の立案を行っています。

総合満足度との相関が高くポイントの低い設問への対応に加え、「一律から個別へ」の方針を掲げ、「業務環境の違い」にも着目して対策をとっています。業務環境による社員満足度のバラつき是正など、社員一人ひとりを取り巻く環境を踏まえ、「満足の質」を高める課題の発見や改善に向けたアクションをとっています。



## 新任ライン長スタートアッププログラム

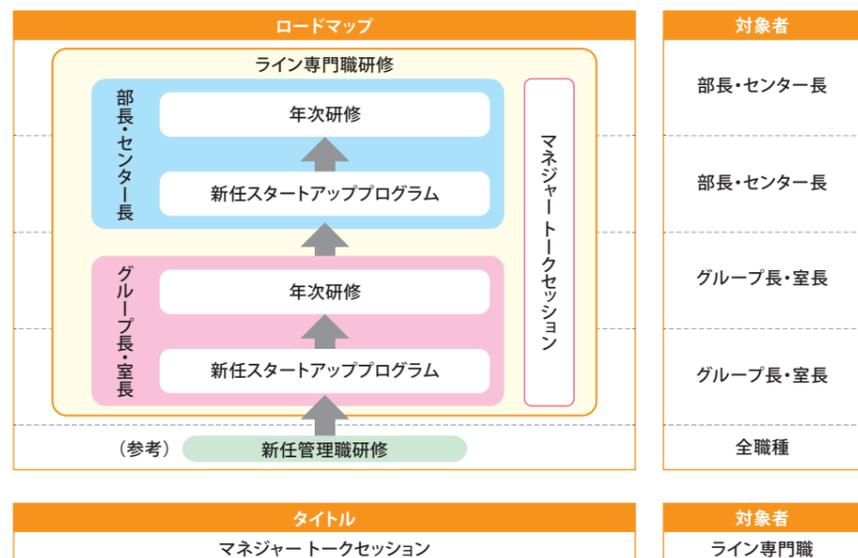
ビジネス環境が目まぐるしく変化中、お客様に信頼されるパートナーとしてあり続けるためには、社員一人ひとりがこれまで以上にレベルアップしていかなくてはなりません。そのためには、社員自身の自己研鑽はもちろんのこと、ライン長がリーダーシップを発揮して、部下を適切に育成・サポートしていくことが重要です。

当社では全ライン長を対象とした年次ライン長研修に加え、新任ライン長に対するスタートアッププログラムを拡充し、ライン長のマネジメント力強化を図っています。

当プログラムでは、初めて部下を持ったグループ長・室長にとって今日からでも必要となる知識を、社内の実事例を教材に、各分野の第一人者であるベテラン社員が講師となって、少人数制のインタラクティブな形で提供しています。

さらに、ライン長が抱えている部下の指導・育成上の悩みや課題について、ライン長自身の経験や社内事例を通して、解決につながるヒントを共有しあい、明日からのマネジメントに活かすことを狙いとして参加者同士が気楽に話し合う座談会(マネジャートークセッション)を開催しています。

今後も当社中期経営計画の要である人材育成に取り組んでいきます。



ライン長研修体系 (2022年)

# 社員と組織の絆を深めるために

## メンタルヘルス研修(オンライン)の開催

コベルコシステムでは、2年に一度、全社員を対象にメンタルヘルス研修を実施しています。

通常はeラーニングの自習形式で実施していますが、コロナ禍によって働き方や休日の過ごし方が変化し、かつ継続していることで、社員がこれまでとは違ったストレスを抱えている可能性を考慮し、外部講師を招いてオンラインでの集合形式にて開催しました。

昨今のコロナ禍により私たちの生活や働き方が激変し、当社においても90%近くの社員が在宅勤務を経験している状況にあります。働き方改革が進む一方で、これまでと違って周囲とのコミュニケーションが希薄になった、相談しづらくなったなど、リモートワーク下のコミュニケーションに起因する問題が顕在化してきているといわれています。

そうした状況を踏まえ、全階層に「オンラインコミュニケーション」のコンテンツを組み込み、在宅など離れたロケーションで働くメンバーとの円滑なコミュニケーションをとる方法、コミュニケーションの重要性についても理解してもらいました。

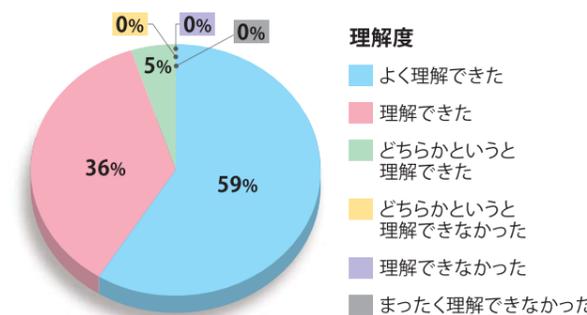
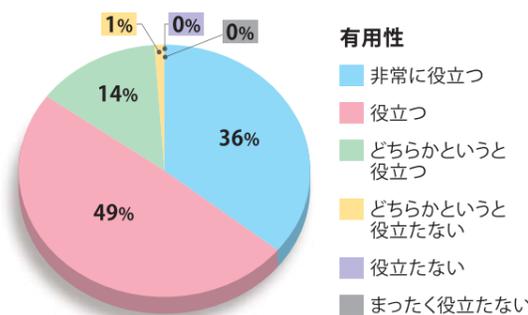
また、それに加え、新入社員や若手・中堅層はセルフケアを重点的に学習し、管理者やリーダー層は周囲や部下に対するケアだけでなく自身のセルフケアについて取り上げ、ストレス要因や対処法

階層	管理者	リーダー	若手・中堅	新人
開催回数	4回	7回	4回	1回
内容	ラインケア			
	セルフケア			
	ストレッチ			
	オンラインコミュニケーション			

についても考えてもらいました。

研修後に実施したアンケートでは有用性・理解度も高く、「知識が整理された」「オンラインコミュニケーションによる雑談もメンタルケアに非常に有効と感じたので即実践したい」「他の受講者との意見交換で同じ思いであることが分かり、気が楽になった」などの声も聞かれるなど、コロナ禍でのメンタルヘルス研修として一定の効果があったと判断しています。

当社では、メンタルヘルス研修に加え、キャリア開発支援やメンタルケア充実のため社外の専門カウンセラーと契約し、社員のワーク・ライフキャリア形成をサポートしています。これからも社員が心身ともに健康でイキイキと働き続けるための環境を整備していきます。



## 全社イベント「コベルコシステムハッピーデー」～家族とともに～

コベルコシステムでは、2008年から「社員同士の一体感の醸成」「社員を支えてくれている家族への感謝」をテーマとして家族参加型の全社イベントを開催しています。2020年は残念ながらコロナ禍のため開催を見送らざるを得ませんでしたが、2021年は12月5日(日)にビデオ会議ツールを利用した初めてのオンラインイベントを開催しました。

例年、全社イベントは人数や地理的な制約のため東京地区、神戸地区に分かれ実施していましたが、オンラインではその制約もなく全国各事業所の社員が一同に会することが可能です。開会のあいさつで、社長の瀬川さんは社員とその家族に向けて「35周年を迎えた当社は、皆様のおかげで大きな成長を遂げることができました。」とメッセージしました。

イベントはタレントMCによる進行で、チーム対抗形式のバラエティ番組のようなゲームやクイズが繰り広げられました。チームワークの素晴らしさ、家族が



社長の挨拶

協力しあう様が画面の中で楽しく映し出されます。特にクイズでは子どもたちの活躍が目まわしくとても盛り上がりました。

久しぶりにマスクをしていない素顔で、またあまり会うことのできない離れた場所の社員と一体感の醸成を図れる貴重な機会でした。いつもとは違う表情の上司、同僚、後輩たちの顔、そして家族の仲良さが見られてとても有意義な時間を過ごしました。



オンライン会場の様子

# 環境保護・地域貢献活動

## 「森の世話人」活動

コベルシステムが本拠を置く神戸は、シンボルである六甲山の自然に恵まれ、地域社会全体で六甲山の自然を守り育て、親しみ、そして愉しんでいます。

コベルシステムでは、国土交通省近畿地方整備局六甲砂防事務所、兵庫県、関係4市が推進する防災事業の六甲山系グリーンベルト整備事業に「森の世話人」として参加し、六甲山の前山の金鳥山(神戸市東灘区)南側に広がる森林を「Kocoroちゃんの森」と名付けて整備しています。

主な活動は、他の植物の生育を妨げるネザサの刈り取り、腐朽木や外来樹種の伐採、常緑樹の間伐、落葉広葉樹の植樹などです。



※コベルシステムの「森の世話人」活動の活動報告は、国土交通省の以下のページに掲載されています。

[http://www.kkr.mlit.go.jp/rokko/pr\\_media/plant/group/company/kobelco.php](http://www.kkr.mlit.go.jp/rokko/pr_media/plant/group/company/kobelco.php)



毎年、50人規模の全社活動を年3回、その合間に10人前後での中間活動を年間十数回程度実施しています。また、活動に際しては、NPO法人「六甲山の自然を学ぼう会」のサポートを得て森づくりを行っています。

2010年3月から活動を開始し、12年目の2021年末までに、全社活動を33回、中間活動を93回実施し、のべ2,400人以上が参加して活動を継続してきました。

2021年は、2020年と同じく新型コロナウイルス感染症の影響により全社活動は2回だけでしたが、緑豊かな、秋には紅葉が美しい森林になることを目指し、ムラサキシキブ、ウラジロノキ、コバノミツバツツジ、イロハモミジの苗木を計25本を植樹しました。

また、これまでに「Kocoroちゃんの森」の休憩所にあわせて10脚のベンチを設置・寄贈し、ハイカーや登山客の皆さんにご利用いただいています。

活動開始から13年目となる2022年も、引き続きネザサ刈りや伐採・間伐とともに落葉広葉樹の植樹を行い、土砂災害に強い森づくりを実施していきます。



Kocoroちゃん

コベルシステムの自然保護活動イメージキャラクター  
Kocoroちゃん

※第12回アニメーション神戸協賛事業として公募

## コベルシステムの「森の世話人」活動に対し、国土交通省近畿地方整備局長から表彰状

2021年10月、国土交通省近畿地方整備局長から当社の「森の世話人」活動に対し、国土交通行政関係功労者表彰(水門・河川愛護部門)が贈呈されました。

これは、「森の世話人」活動に参加していただいた多数の皆さんのご協力を得て、12年にわたり、Kocoroちゃんの森を整備してきたことが評価されたものです。

当社の「森の世話人」活動は、2015年と2019年に六甲砂防事務所から功労者表彰として感謝状をいただいております、今回の近畿地

方整備局長からの功労者表彰で三度目の表彰となります。

河川愛護功労者部門で表彰されたのは、六甲砂防事務所が国土交通省近畿地方整備局河川口部所属の現業部門ということで、砂防のための森づくりが、山から流れ出る河川の改善につながることから、「多年にわたり森づくりに従事し、功績が顕著な団体」に対して表彰されました。



## その他の社会貢献・地域貢献活動

### ■スポーツ振興・芸術への協賛

- NPO法人スポーツ・コミュニティ・アンド・インテリジェンス機構(SCIX)に協賛しています。
- 公益社団法人大阪フィルハーモニー交響楽団、公益社団法人アンサンブル神戸に協賛しています。

### ■サイバー犯罪に対応するための兵庫県警への貢献

兵庫県警察本部からの委嘱を受けて、サイバーテクニカルサポーターとして社員を派遣し、サイバー犯罪に対応するためのIT捜査知識・技術の向上に貢献しています。

## 会社プロフィール

会社名称: コベルシステム株式会社  
 創立: 1983年10月1日  
 (神鋼コンピュータシステム株式会社として発足)  
 設立: 1987年7月1日 (コベルシステム株式会社へ商号変更)  
 代表者: 代表取締役社長 瀬川文宏  
 株主: 日本アイ・ビー・エム株式会社 51%  
 株式会社神戸製鋼所 49%  
 資本金: 4億円  
 社員数: 1,684人 (2022年1月1日現在、関連会社 503人を含む)  
 関連会社: コベルソフトサービス株式会社  
 本社: 〒657-0845  
 神戸市灘区岩屋中町4丁目2番7号 (シマブンビル)  
 URL: <https://www.kobelcosys.co.jp/>  
 売上高: 483億円 (2021年度)  
 売上高推移: 500



事業所:



## 沿革

- 2021年: エンタープライズ開発本部をエンタープライズ本部に改組
- 2020年: エンタープライズ開発本部 開設  
次世代育成支援対策推進法認定マーク(プラチナくるみん)取得  
広島事業所 開設
- 2019年: 技術開発本部 開設  
スマートファクトリーセンター 開設
- 2018年: デジタルイノベーションセンター 開設  
クライアントパートナーチーム 設置
- 2017年: 会社設立30周年 記念行事を開催  
日本IBMグループ統一ISMS認証取得 (SO本部)
- 2016年: 東京本社リニューアル
- 2015年: 「コベルシステム クラウドインテグレーションサービス」開始  
事業部制導入
- 2014年: SAP導入テンプレート「HI-KORT」のクラウドサービス開始  
本社「近畿ニューオフィス コミュニティ賞」受賞  
ISMS(情報セキュリティマネジメントシステム)永年登録表彰
- 2013年: 本社移転  
「プライバシーマーク制度貢献事業者」として表彰
- 2011年: 中国・北京で開催された「SAPPHIRE NOW in Beijing」に出展
- 2010年: クラウドサービスセンター 開設
- 2009年: 次世代育成支援対策推進法認定マーク(くるみん)取得  
「秘伝のタレ®」「秘伝のワザ®」を商標登録
- 2007年: 全国企業品質賞にて大賞受賞(栃木県経営品質協議会主催)
- 2006年: 東京事業所を東京本社と改称  
全国企業品質賞にて最優秀賞受賞(栃木県経営品質協議会主催)
- 2005年: AMS®センター 開設
- 2004年: IPセントレックス・IPコミュニケーション事業に進出
- 2003年: ISMS認証取得
- 2002年: アウトソーシング事業を強化  
日本IBMの資本参加
- 2000年: プライバシーマーク(個人情報保護)の認定取得
- 1999年: ASP事業の本格的な展開を開始  
ISO 9001認証取得

※ AMS: Application Management Service  
SAP社のERPパッケージをベースとした基幹システムの、本番稼働後の安定稼働や運用技術支援、業務の定着化を支援するサービス

## 編集後記

本レポートを最後までお読みいただき、まことにありがとうございました。  
 本レポートはそれぞれの分野の担当者が、できる限りわかりやすく伝えることを心がけて執筆いたしました。  
 また、記載の内容をより理解いただくために図や写真を多用し、かかわった社員の声を数多く掲載いたしました。  
 コベルシステムのCSR活動に対する皆さまの理解が深まり、親近感を覚えていただけましたら幸いです。  
 今後もさらにCSR活動を強化し、ステークホルダーの皆さまと「ともに」の姿勢で取り組んでいきます。

CSRレポート2022は、以下のURLからWebBook版でもご覧いただくことができます。

<https://www.kobelcosys.co.jp/ebook/csr/2022/csr2022/>

ご意見・ご感想は、当社ホームページ「その他のお問合わせ」から願いたします。

<https://www.kobelcosys.co.jp/inquiry/other/>

コベルシステム株式会社 経営企画部 CS・CSR推進グループ  
 〒657-0845 神戸市灘区岩屋中町4丁目2番7号 シマブンビル10F  
 TEL: 078-261-6001 FAX: 078-261-7520

